

## 多彩なアプリケーションをマッシュアップでき 多言語対応の UI で海外の人とも共有しやすい Google サイトをプロジェクトサイトとして活用！



### 株式会社スペースタイム

〒001-0010  
札幌市北区北 10 条西 4 丁目- 1  
SC ビル 1 階  
<http://www.stxst.com/>

#### 会社概要

サイエンスを中心とした“学び”と“集い”をデザインするコンテンツ制作会社。ポスターやパンフレットなどの印刷物、グラフィックデザイン、Web サイト、動画、イベント、講演（出演）、プロジェクトといった様々なメディアにおいて、学びたい人と学びを提供したい人をつなぐコンテンツ制作を手がける。そして、こうしたコンテンツを通じて、学び集うことの大切さ、楽しさを広め、人々とサイエンスとのよりよい関係を目指している。

### 柔軟にカスタマイズでき今後の発展性も感じられた Google Apps

科学技術分野を中心に、難しい学術内容を広く一般にわかりやすく伝えることを目的とするコンテンツの企画・制作・運営を手がける株式会社スペースタイム。近隣の北海道大学をはじめ、大学や研究機関、出版社を主要クライアントとし、さまざまなサイエンスの詳細をポスターやパンフレットなどの印刷物、Web サイト、イベント、動画などを用いて、子供から大人までの対象に応じて的確に表現加工することをミッションとしている。

国の政策としてのこのミッションを担う人材を養成する大学の講座に応募した代表取締役の中村景子氏は、受講後の2006年7月、個人事業として「科学技術コミュニケーション工房スペースタイム」を創業。2010年1月、法人化した。

「それまでは自分一人で小規模に行っていましたから、@nifty のメールと手書きのダイアリーで済ませていました。誰かと何かを共有するというにあまり不都合は感じていなかったのですが、会社をつくって事業規模を広げていこうと決めた時、社員や外部の人たちといろいろ共有することになることが想定できました。また、会社として独自のドメインを付ける必要もありました。そこで、そうしたことが便利なツールを導入することにしました」と中村氏は振り返る。その時、真っ先に思い浮かべたのは、ネット上の情報で存在を知っていた Google Apps for Business。中村氏はプライベートでも Gmail を利用していた。

「メールクライアントや予定管理ツールとして PC にインストールされていた Outlook を使うことも頭をかすめましたが、杓子定規にいろいろなことを定めなければならないイメージがあって、使う気が起こらなかったのです。結果的に、ほかのプロジェクトを検討することなく Google Apps に決めていました。Google Apps なら柔軟にカスタマイズでき、今後いろいろなサービスが増えていく発展性も感じられたからです」と中村氏は Google Apps for Business の選択理由を語る。

### Gmail と Google グループをさまざまに使い分け

大学では情報系の学科を専攻した中村氏は、「IT は意地でも不得意とは思いたくなかったから（笑）」と、自力での導入作業を行うことにした。

「特にドメインの設定に苦労しました。Google の『ヘルプ』画面は、今はずいぶんわかりやすく改善されて充実していますが、当時はちょっとわかりにくいところがあり、詳しい画面に飛ぶと全面的に英語で書かれていたり、やや難儀しましたね。それでも数日で導入できましたが」

社員はその後、2014年1月までの4年間で4名まで徐々に増え、同年4月にはもう2名増えて計6名になる。こうした中で、Google Apps for Business の活用度も徐々に広がっている。まずは Gmail と Google グループ。同社では、いろいろな業務のプロジェクトをいくつか同時並行的に進めているが、Gmail と Google グループで通常の1対1のメール、特定のメーリングリストへの連絡、一斉伝達と対象に応じて使い分けしている。「いずれにしろ、スマホやノート PC などのブラウザさえあればどこでも見られますし、検索機能が優れているところがいいですね。1つのタスクに関するメールの件数が増えるとき系列では追いきれなくなりますが、検索するとすぐに見つけ出せるころは大変便利だと思います」

### Google ドライブで社外関係者とコラボレーション

Google カレンダーは、社員全員の予定共有と、各自がプライベートの予定管理に活用している。「休日と給料日は全員の画面に強制的に表示させています（笑）」。それ以外、適宜全員の予定を共有。「手帳を持たなくなりましたね。外出先でも、予定が決まればスマホで入力しています。また、カレンダーに外出先の地図を貼ってすぐ見られるようにするといった使い方もしています」



(中央)  
株式会社スペースタイム  
代表取締役社長  
中村景子氏

## Google Apps について

「Google Apps for Business」は、クラウドの価値を実感できる、画期的なホスティング型オフィススイート。1人30GBまでの大容量メールボックス、会議への招集も簡単なカレンダー、1つのドキュメントをオンラインで共有しながらのレビュー、誰でも簡単に立ち上げられるサイト、急ぎの用件や確認に便利なチャット、円滑なリモートワークを実現するビデオ通話、動画の投稿や共有、そして強力無比の検索など。Google Apps for Businessには、社内情報を共有・管理し、最大限に活用するさまざまな機能がセットされています。しかも、費用は1ユーザーあたり年間6,000円。IT部門の管理者は、サーバー需要の増加、メンテナンス作業、セキュリティ対策などに悩む必要もありません。

詳細は、<http://www.google.co.jp/a>まで

\*すべての企業名及び製品名は、該当する企業の商標または登録商標です。

Googleドライブは、プリンターのインク管理といった社内の事務的な取り決め文書を全員で共有したり、会計情報を社長である中村氏と顧問会計士および入力担当者だけで共有することに利用している。

「案件を受注しその金額などを入力すると、リアルタイムで会計士と共有できて、すぐにチェックしてもらえます」

さらに、業務で外部のライターが書いたテキストを共有し、コミュニケーションを取りながら校正を加えるといったことにも活用している。

「以前は、書いたテキストファイルをメール添付で送ってもらい、それに修正を加えて送り返し、といった作業を繰り返して仕上げていましたが、それが双方同時にできるようになりました。誰がどのように修正したのか、履歴も残りますので非常に便利です」と中村氏は評価する。

## 社内プロジェクト管理に便利な機能が充実している Google サイト

そして、同社はさまざまなコンテンツ制作業務そのものを管理するプロジェクトサイトとして、Googleサイトを活用しているのが特徴的だ。特に英語サイトを構築する時に威力を発揮するという。

「英語版サイトは、外国人の先生やスタッフと作成することが多くあります。その時、その英語版サイトの制作過程を共有するプロジェクトサイトをGoogleサイトでつくれば、UIをそれぞれの母国語で見ることができます。類似のツールも検討しましたが、多言語対応機能が備わっているのはGoogleサイトだけでした。これは大きいですね」

例えば、メインクライアントである北海道大学から受託しているWebサイトは約800ページ、20以上の工程種目に上る。プロジェクトサイトでは、こうした工程ごとにそれぞれの関係者だけとコンテンツ別の進捗状況や要素データなどを共有できるようにしてあり、複雑多岐なタスクが同時進行するプロジェクトを一元管理できるプラットフォームとしている。

「Googleサイトは社内プロジェクト管理に便利な機能が充実していると思います。Googleカレンダーやスプレッドシートなども簡単にマッシュアップできます。UIもシンプルで使いやすいですね」と中村氏は言う。

## Google Maps 活用のキャンパスマップが大好評

同社が手がけたその北海道大学の英語版サイトは、アジア太平洋地域の教育リーダーのカンファレンスである「9th QS-APPLE」におけるCreative AwardsのWebサイト部門で見事、第1位に輝いた。その大きな要因となったのは、Google Maps API for Businessをカスタマイズして作成した札幌および函館キャンパスのマップだという。札幌キャンパスの面積は177万㎡にも及び、広大な敷地に数多くの校舎や施設が点在している。同学に留学を希望する外国人は多く、キャンパスのどこに何があるのかを調べるニーズに応えるものだ。Google Mapsならば、数多くの外国人が使い慣れていることに着目した。

「300ほどの施設など、独自にillustratorで作成した構内地図をGoogle Mapsのレイヤーに重ね、さらに施設をクリックすると詳細情報に飛べるウィンドウを開くようにしました。また、そのウィンドウのURLも表示するようにしたので、コピー&ペーストすれば誰かに場所を伝えることもできます。海外の研究者や学生に居場所を教えるのにも都合がいいと好評をいただいています」と中村氏は胸を張る。

また、北海道大学が行っている「GiFT」(Global Issue for Tomorrow)というイベントがある。「これから専門を選び、学ぶ」人に向け、グローバルな課題に取り組んでいる研究者が「今、そして未来にはどのような課題があり、その解決となる鍵は何か」というメッセージを配信し、さらにTwitterを使って視聴者と意識を共有するというものだ。同社はUstreamやGoogle+ハングアウトを利用してそのライブや動画の配信も手がけている。

「Ustreamが送信できないエリアにはGoogle+ハングアウトで送信するなど、相互補完的に活用しています」と中村氏。

社内の業務管理やコミュニケーションのみならず、ビジネスそのもののツールとしてもGoogle製品を使いこなしている同社は、業界の先端を進んでいるといえるだろう。



ライブ配信を海外で視聴している学生からの質問に答える北海道大学の研究者。



### お問い合わせ

Google Apps for Businessの詳細については、<http://www.google.co.jp/a>をご覧ください。

© Copyright 2014 Google

Googleは、Google Inc.の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

© Copyright 2014 Google is a trademark of Google Inc. All other company and names may be trademarks of the respective companies with which they are associated. GECS 03/15/12